

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社あおぞら銀行（証券コード:8304）

【見直し変更】

長期発行体格付
格付の見直し

A
安定的 → ネガティブ

■ 格付事由

- 資金量約 5.6 兆円の銀行で、国内の主要行に比べると事業規模は小さいものの、不動産や LBO などのストラクチャードファイナンスにおける高い専門性に強みを持つ。法人営業、ストラクチャードファイナンス、インターナショナルビジネス、マーケット、カスタマーリレーションの各グループの下、投融資によるエンゲージメントを通じて企業の成長を支援する「あおぞら型投資銀行ビジネス」を推進している。
- 格付は、強みのある複数の業務を源泉とする事業基盤、健全な資産の質、相応の収益力および資本充実度に支えられてきた。しかし、足元では有価証券収支の悪化を主因に基礎的な収益力が低下している。また、多額の与信費用による赤字の計上や有価証券の評価損拡大を背景に調整後のコア資本比率が低下し、「A」の銀行としては見劣りする水準にある。今後の収益力や資本充実度は改善に向かうと JCR はみているが、従来水準に回復するまでには時間を要する可能性もあり、格付の見直しを「ネガティブ」に変更した。注力する投資銀行ビジネスの業績は堅調であり、収益力や資本充実度を早期に改善できるか注視していく。
- 足元では基礎的な収益力が低下している。有価証券収支の悪化や仕組債販売の抑制などが影響している。加えて、米国オフィス向け不動産ノンリコースローンの与信費用や含み損を抱えた有価証券の売却損により、24/3 期通期の業績予想を 280 億円の当期純損失に修正した。一方、投資銀行ビジネスは、法人営業、ストラクチャードファイナンス、インターナショナルビジネスを中心に堅調であり、業績を支えている。有価証券収支の改善やリテールビジネスの捩入れに加え、連結子会社である GMO あおぞらネット銀行の収益貢献の本格化などを通じ、早期に収益力を回復させることができるかフォローしていく。
- 貸出資産に関しては、国内外の不動産ファイナンスや海外コーポレートローンなど特定分野への与信集中度が高く、外部環境の影響を受けやすい。24/3 期には、米国オフィスの不動産市況が悪化したことを受け、同分野のノンリコースローンの評価を見直した結果、多額の与信費用を計上した。今般、保守的な評価を行ったことにより追加損失のリスクは後退したものの、米国オフィスの不動産市況の先行きは不透明であり、今後の動向を見守っていく。
- 有価証券運用では、海外金利上昇の影響を受け、その他有価証券の評価損が 23 年 12 月末で 815 億円（ヘッジポジションを含む）と、コア資本の 2 割弱に相当する金額となった。24/3 期下半期には評価損を抱えた有価証券を一部売却するなど、ポートフォリオの再構築に着手している。ポートフォリオ再構築の進捗、有価証券収支および評価損の改善の動向をフォローしていく。
- 資本充実度は格付対比で改善の余地がある。その他有価証券の評価損などを考慮した調整後コア資本比率は 23 年 12 月末で 7% 台前半にとどまる。中期的には収益力の改善やリスクアセットのコントロールにより調整後コア資本比率は回復していくとみているが、JCR はその進捗を見守っていく。流動性に特段の懸念はない。外貨建て資産の規模が大きいが、調達が多様化を通じ、外貨調達構造は安定している。

（担当）大石 剛・浅田 健太

■ 格付対象

発行体：株式会社あおぞら銀行

【見直し変更】

対象	格付	見直し
長期発行体格付	A	ネガティブ

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2024年2月29日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：大石 剛
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年2月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社あおぞら銀行
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っており、JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL : 03-3544-7013 FAX : 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル